

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2019 Mar.

第106号

発掘
調査遺跡
紹介

村上市上野遺跡・企画展・少年少女考古学教室案内



上野遺跡 縄文時代後期の谷を掘る 2018年8月



平成30年度
発掘調査
遺跡の紹介

上野遺跡 II

—谷を廃棄場にした縄文集落—

所在地：村上市猿沢・桧原地内

かみの
上野遺跡は国道7号朝日温海道路の建設に伴って、平成29年度から調査しています。

遺跡は高根川^{たかねがわ}右岸の西から東へ緩やかに下る丘陵裾部に立地し、現標高は約35～37mです。調査区北側で、縄文時代後期前葉（約4,000年前）の居住域と廃棄場を検出しました。居住域は南端部を調査したにすぎず、試し掘りではさらに北側で複数の住居を検出しています。調査区南側には谷の旧地形に沿って流れたとみられる土石流の砂礫が4mあまり堆積していました。縄文時代後期の土器が含まれていたため、上流の集落を巻き込みながら流れてきたことが分かります。

おもな遺構は、縄文時代後期前葉の埋設土器、竪穴建物、廃棄場です。埋設土器はお墓の可能性のある遺構です。遺構が作られた時期には若干の時間差があり、埋設土器は竪穴建物などを覆う土石流堆積物を掘り込んで作られていました。居住域だった場所が土石流後に墓地へ変化したのかもしれない。



調査区全景（上空 北から）

遺物の多くは廃棄場から出土し、収納箱（内寸54×30×10cm）で約930箱、土器・石器・土製品・石製品などがあります。土器は新潟県の縄文時代後期初頭から後期前葉にかけて多く分布する三十稲場式と南三十稲場式を主体として、東北地方の土器が少量あります。縄文時代後期前葉に限定できる大量の遺物は、当時の道具立てを知るうえで貴重な出土事例です。（土橋由理子）



廃棄場の調査（南から）



谷を埋没させた土石流堆積物を取り除いた様子（南から）



埋設土器（南から）



縄文土器・石器・土製品・石製品



平成30年度
発掘調査
遺跡の紹介

丘江遺跡Ⅵ

— 中世の水田跡 —

所 在：柏崎市田塚3丁目ほか

丘江遺跡は、柏崎平野の中央から西より、鯖石川左岸の沖積扇状地の末端に位置し、現標高は6～7mです。遺跡は、国道8号柏崎バイパス建設地内の南北約740mの範囲に広がり、平成26年度から調査を行っています。これまでに鎌倉から室町時代、安土桃山時代の建物の柱穴・井戸などが多く見つかった南側は居住域で、隣接して北側には、当時の水田が広がっていることがわかりました。丘江遺跡Ⅵの調査地点は、遺跡北側の水田が広がっている地域に位置します。水田は3面あり、上層が安土桃山時代、中・下層が鎌倉から室町時代に造られたものと考えています。また、弥生時代後期の竪穴建物や流路も見つかっています。

水田は、あぜや溝の方向、田面に残る耕作の攪拌の範囲などから当時の区画を復元しました。鎌倉から室町時代の水田は、埋没した流路に沿って

地形の傾斜を利用して築かれていたことがわかりました。安土桃山時代の水田は、あぜを南北-東西方向に築き、水路を設け、田の区割りも以前より大きくなっています。弥生時代後期の竪穴建物は、中世の水田耕作などで一部壊れていましたが、炉跡や柱穴が残存し、弥生土器も出土しました。流路は、調査区の北東から南西の方向で見つかり、川底から弥生時代後期の土器が多く出土しました。流路周辺の集落から川に捨てられたものと考えています。

遺物は、鎌倉時代から室町時代の土師質土器・珠洲焼・青磁・渡来銭、安土桃山時代の瀬戸・美濃焼、江戸時代初めの唐津焼、弥生時代では土器のほかに緑色凝灰岩と鉄石英を材料にした管玉未成品、ヒスイ剥片を見つけています。

(飯坂盛泰)



調査区全景 (上空北東から)



弥生時代後期の竪穴建物



鎌倉から室町時代の水田 (白線内があぜ)



流路の弥生土器出土状況



埋文
コラム

きざきやまいせき
木崎山遺跡

こせとしじこ みつきょうほうぐ
古瀬戸四耳壺と密教法具

木崎山遺跡は、上越市柿崎区柿崎に所在し、柿崎川右岸の砂丘上に立地する遺跡です。1979・80年に、北陸自動車道柿崎インターチェンジの建設に伴い発掘調査が行われました。

上杉氏の有力家臣柿崎氏の居館の可能性が高い遺跡として、以前から注目されていましたが、発掘調査の結果、主に飛鳥時代から平安時代（7世紀後半から9世紀）と鎌倉時代から室町時代（13世紀～15世紀）の遺跡で、戦国期（16世紀）の遺物は少ないことが分かりました。

写真の古瀬戸四耳壺と11点の密教法具（銅製・青銅製）は不整楕円形の土坑（現長1.3m、幅1.0m、深さ0.6m）から出土したものです。土坑内には古瀬戸四耳壺が直立して置かれ、五鈷鈴は古瀬戸四耳壺の近くから出土しました。また、花瓶・飯食器・六器は古瀬戸四耳壺の中に収められていま

した。古瀬戸四耳壺は頸部を折って花瓶などを納めたあと、再び漆で接合されています。古瀬戸四耳壺の年代から鎌倉時代（13世紀）に埋められたと思われます。

これらの遺物は、地鎮に用いられたものと思われます。地鎮とは建物などの造営に先立って土地神を鎮める儀式で、寺や役所、有力者の居宅などの格の高い施設や建物で主に行われました。

飛鳥時代・奈良時代には銭貨や水晶・ガラス玉などが納められていましたが、平安時代以降になると、五鈷鈴・花瓶・飯食器・六器などの密教法具が納められることも多くなりました。

木崎山遺跡出土の古瀬戸四耳壺と密教法具は鎌倉時代の有力武士の信仰の様子を示す興味深い資料です。1984年に「木崎山出土地鎮具」の名称で新潟県指定文化財となりました。（春日真実）



木崎山出土地鎮具（12点）奥左：花瓶、奥中：五鈷鈴、奥右：古瀬戸四耳壺／高さ30cm
中左：六器（小鉢）中右から3点：飯食器、前5点：六器（台皿）



埋文 インフォ メーション

2019度春季企画展 佐渡の王—蔵王遺跡— を開催します

弥生時代から古墳時代にかけて、日本列島には小さな国々が生まれます。佐渡市の国中平野に位置する蔵王遺跡では、古墳がないにもかかわらず、青銅器の鏡が2面見つかりました。また、銅鍍やガラス製の小玉、精巧な作りの木製威儀具、大型建物や建築材があり、まさにこのころの王の存在をうかがい知ることができます。新潟県指定文化財である蔵王遺跡の出土品を一堂に集め、佐渡の歴史に触れていただきます。



内行花文鏡 (提供：佐渡市)

- ◆ 日 時：2019年4月12日(金)～8月25日(日)
9：00～17：00
- ◆ 会 場：新潟県埋蔵文化財センター
- ◆ 内 容：内行花文鏡・ガラス製小玉・貴人の顔を隠すための翳形木製品など権威の象徴、木製の曲物・腰掛・鉾・大型の柱、祭祀用の鶏形土製品・木製剣形など87点を展示。
- ◆ 観覧料：無料
- ◆ 関連講演会：定員80名(申込み不要)
- ◆ 時 間：13：50～15：20 会場は当センター
※手話通訳、要約筆記をご希望の場合は、開催日の2週間前までにご連絡ください。

- 4月21日(日)「佐渡の古墳を考える
—蔵王遺跡の時代—」
田中祐樹(当センター)
- 5月19日(日)「[邪馬台国時代]の佐渡・蔵王遺跡」
鹿取 渉氏(佐渡市世界遺産推進課)
- 6月23日(日)「布掘り柱掘形をもつ掘立柱建物の特異性」
高橋浩二氏(富山大学人文学部)
- 7月7日(日)「蔵王遺跡出土木製品が語るもの」
樋上 昇氏(愛知県埋蔵文化財センター)
- 8月25日(日)「蔵王遺跡出土鏡と新潟県における古墳時代の鏡」
高野晶文氏(三条市教育委員会)

少年少女考古学教室(全4回)を開催します

学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの本物を観察し、様々な体験活動とおして古代の人々の知恵や生活を学びます。全4回参加者には記念品をプレゼント!

第1回「縄文土器の観察と土器作り体験」

- ◆ 日 時：6月23日(日) 9：00～12：00
- ◆ 内 容：本物の縄文土器を観察し、土器の文様や特徴を学んだ後に、土器作りを体験します。
- ◆ 対 象：小学4年生～中学3年生(先着20名)
- ◆ 申込期間：4月1日(月)～6月21日(金)

- ◆ 参 加：無料
- ◆ 申込方法：氏名・学年・住所・電話番号を添えて当センターまでお申し込みください。
- ◆ 電 話：(0250) 25-3981
- ◆ F A X：(0250) 25-3986
- ◆ メール：niigata@maibun.net
- ◆ 今後の予定：申し込みはその都度受け付けます。
第2回9月8日(日)
「竪穴住居の観察とクルミ割り体験」
第3回11月10日(日)
「石斧体験と勾玉作り」
第4回1月26日(日)
「古銭の拓本取りと編み物作り」



土器作り体験



県内の
遺跡・遺物
104

うのき
卯ノ木遺跡出土品98点

(平成29年3月21日 新潟県指定有形文化財 [考古資料])

遺跡所在地：中魚沼郡津南町

遺物保管：長岡市（長岡市立科学博物館） 毎月 第2・4 月曜日休館

卯ノ木遺跡は、中魚沼郡津南町大字下船渡乙にある縄文時代草創期及び早期（約13,000年前及び約9,000年前）の遺跡です。信濃川右岸に形成された河岸段丘上にあります。昭和31年（1956）、長岡市立科学博物館が発掘調査を行い、草創期及び早期の土器や石器が出土しました。遺構は検出されませんでした。発掘地点により出土遺物に時期差があることが分かりました。特に土器は、縄文土器型式の編年や地域的な特徴を明らかにする上で、新潟県はもとより全国的にも重要な資料として注目されました。

草創期の土器は破片のみですが、文様は縄の側面を押し付けた押圧縄文を主としています（写真1右）。早期をさらにさかのぼる「草創期」を設定する契機の一つとなった歴史的な資料です。

早期の押型文土器は底が尖る器形で、連続菱目文という独特の文様を主とする古い段階と、楕円文を主とする新しい段階に区分できます。前者は「卯ノ木Ⅰ式」、後者は「卯ノ木Ⅱ式」と呼ばれています。卯ノ木Ⅰ式の菱目文は、1条から2条の

菱形文様が横に連続するもので、文様を彫り込んだ小さな棒軸を横方向に回転して施文します（写真1左）。この種の文様は津南町周辺に集中し、県内の上越・下越地方や県外にも広がりました。一方、卯ノ木Ⅱ式は、楕円文と山形文を交互に密接して施文するのが特徴で、その復元個体は縄文時代早期にみられる尖底土器の典型として、社会科学の教科書にも頻繁に掲載されています（写真2）。

新潟県域は中部高地の押型文土器文化の北端域にあたり、卯ノ木式土器はその外縁で生まれた地方色の強い土器型式といえます。

遺跡は、昭和40年代の開発事業により壊滅したと考えられていましたが、平成9年（1997）に津南町教育委員会が開発に伴い試し掘りを行ったところ、遺跡の一部が残っていることが判明し、同時期の遺物も発見されました。

草創期研究の端緒となった押圧縄文土器や早期の標識資料の卯ノ木式土器など、学術的価値が極めて高く新潟県有形文化財に指定されました。

（長岡市立科学博物館 小熊博史・鳥居美栄）



写真1 草創期の押圧縄文土器（右）
早期の押型文土器（左：菱目文様）



写真2 早期の押型文土器（楕円文と山形文）

